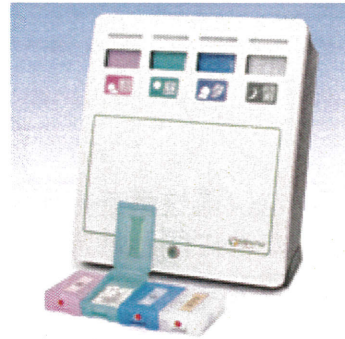


便利な「道具」 在宅用服薬支援機 お薬飲んでね!



独り暮らしや夜間、早朝以外は家族が出かけているというご家庭はたくさんあります。一人で過ごす高齢者がきちんと服薬ができているか心配ですよね。

薬が飲めないことも問題です。また飲み過ぎも問題です。わたしたちの事務所でも活用して効果をあげたのが服薬支援ロボットです。わたしたちが利用して頂いた方は独り暮らしのかたでした。彼女は自分が思ったら用法用量には従いませんでした。そのため便が緩くなってヘルパーはその処理に追われていました。服薬支援ロボットは過剰な服薬をさせないために決まった量のお薬しか飲めない仕組みです。

逆にご本人が飲む事をそれでも忘れてしまった場合には次の服薬の時間を考えて服薬の間隔が近くなりすぎないようにもなっています。

そのロボットを導入した後は「飲み過ぎ」は無くなり、ヘルパーの仕事も少し楽になりました。

いまは多くの商品が発売されています。

高齢者の安否確認機能までついた高機能の商品も出てきました。

「便利だなあ」と感じた方もいらっしゃると思います。

「でも、高いんじゃないの？」

と心配される方もいらっしゃると思います。

確かに購入すれば10万円は飛んでいきます。

ですが、調剤薬局によっては医師の指示で行われる「訪問薬剤指導」を用いて貸与して下さることもあります。

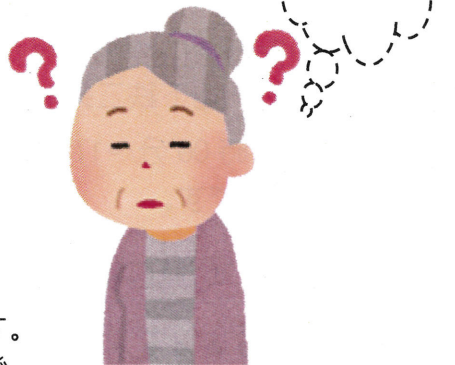
わたしたちが支援する高齢者はそれを用いて貸与をして頂きました。

そのため本人の負担はほとんどありませんでした。

まだ貸与をしていただける調剤薬局は少数です。

しかし、これがあれば飲み忘れも飲み過ぎも防ぐ

ことができる高齢者がいるのですからもっと普及すれば良いですよ。



児玉真美
Mami Kodama

私たちが
ふつうに
老いることが
できない

高齢化する障害者家族

大月書店

著者 児玉 真美 著
出版年月日 2020/05/22
ISBN 9784272360932
判型・ページ数 4-6・208 ページ
定価 本体 1,800 円+税

大月書店

筆者は 1956 年生まれの重度重複の障がいを持つお子さんのお母さん。そして一般社団法人日本ケアラー連盟の代表理事です。

筆者はこの本の中、障がいをかかえたお子さんを育てる父母のインタビューや御自身の子育て体験を記しています。

社会の支援が不足する中で、子供を守る父母が周囲の無理解に苦しむ。必死の思いで子供を支え、自分の身体に鞭を打つ。そんな「地獄」を感じながら懸命に生きてきたことが分かります。

そのケアに当たる人も歳を重ねていきます。

これまでにできていたケアもできなくなる時が来ます。

わたしたちの事務所は高齢者と障がい者の支援を仕事にしています。

その中でどうしても外せないと思っている事務所の「使命」はケアが必要な人自身の人権とその家族の人権どちらもないがしろにしないということです。

この本を通じて障がい者を育てるご両親の苦悩を知り、欠けている社会的な支援体制を学ぶことは私たち「共にあゆむ」支援者として欠かすことはできません。

私たちは与えられた土俵で認められたケアを行うことはできますが、土俵が与えられなければ無力です。

だから私たちは家族の人々とともに学び、土俵を広げていける力を持ちたいと思います。

ケアが必要な人を「地獄」に置かない。ケアが皆の笑顔を奪わないために当事者の方とともに歩みたい。

いまは若いご両親であっても誰もが歳を重ねます。子供の幸福を願いながら、地獄を与える社会に不安を持ちながら先に逝く不安。

障がいをもつ人を支える家族、ご本人の笑顔を決やさないために行動しなければ。それは支援の場にいるものの義務だと思います。



有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部 ☎075-958-2560

長岡京市天神4丁目 7-12 ハイツ東台101